

明治時代を手本に

目次

- 一 欧米化に伴う日本文化の喪失
- 二 明治時代の和洋折衷
- 三 失われた日本式生活文化の復活
- 四 国から民間企業に
- 五 最後に

〈欧米化に伴う日本文化の喪失〉

現代の日本人なら誰もが気づくことであるが、明治時代の生活と現代社会の生活環境は著しく変化した。建築物は頑丈になり、利便性が高いものになり、屋内での空調も完備され、快適な生活環境の元、日常生活を送ることができるようになった。技術の進歩は驚くべきものだと感じる。江戸時代から明治になり、現代にいたるまで、約百五十年が経過しようとしている。そんな中、日本人の着る服、食べるものは明治時代の「欧米を手本に」という言葉の通り、すっかり、変わってしまった。今や、近所に和服を普段着として着用する人はほとんど見ることが出来なくなり、街中には同じようなタイル張りの景観のマンション、透明ガラスに実を包まれた高層ビルが立ち並んでいる。私事ではあるが、私は、海外旅行が趣味で、近年、よく海外に足を運ぶのだが、アジア各国の首都、アメリカの都市などの中心部を歩いていて、あまりこれといった違いを感じる事が出来ないと感じる。首都はやはり、各国の多国籍企業等が集まるからなのだろうか。某有名企業のカフェ、ハンバーガーショップ、高級ブランド店が多く立ち並んでいる。日本各地も同様である。京都、奈良、など古い神社や寺といった日本固有の建築物が、並んだ大規模な街並みはもはや

珍しくなってしまった。もちろん、これは他国でも起こっていることであり、グローバル化の一連の流れであり、致し方ないところである。

また、日本は第二次世界大戦において、本土空襲の影響で、多くの古い建築物が、焼失してしまった経緯もあるため、仕方ない面もある。

〈明治時代の和洋折衷〉

明治時代は日本にとって大きな転機点であった。欧米諸国を真似して、政府は国を挙げて、鹿鳴館などの迎賓館、官公庁の施設をレンガ等で覆われた建築物を相次いで建設していった。そんな中、庶民の暮らす住居は藁葺屋根で覆われたものや、瓦で覆われたものがほとんどであったようだ。赤レンガ等で作られた建築物に住む人は富裕層がほとんどであったようだ。西欧の新しい建設物と日本の伝統的な建設物が街中に混在していた時代であった。人々の着る服は、官僚の制服として、洋服が推奨されるようになったこともあり、徐々に洋服を着る人が増えたが、ごく一部の上流貴族が中心であったようだ。例えば、昼間は洋服を着る人も家では和服を着る人が多かったようだ。

やがて、第二次世界大戦に入ると、綿をより使わない洋服が国民の間で普及していった。

く失われた日本式生活文化の復活く

今から急に江戸時代や明治時代のような伝統的な生活に戻るとい
うのは無理がある話である。そのため、建設物、服装だけでも、伝統
的なものを採用することを推奨する。それによって、日本人の自国に
対しての理解を高めるだけではなく、日本経済にも大きな良い影響
を与えることが出来ると考える。

・官公庁、学校などの教育施設における制服に和服を採用する。

沖縄県や、一部の市区町村の役所などでは夏はアロハシャツをク
ールビズの一環として着用を推奨しているところもある。ハワイな
どでは正装がアロハシャツとなっている。日本には夏でも涼しい素
材を作る技術なども優れており、江戸、明治時代に着用されていた和
服にはない優れた機能性を兼ね備えたものを製造できるであろう。
現代の技術と、古代の文化の融合により現代版高機能和服が出来る
であろう。

・官公庁、学校などの公共施設などに日本の伝統建築方式を採用した
木造家屋を建設する。

既存の建築物を取り壊してまで、木造の建築物を作るといふのは

税金の無駄にもなるだろう。そのため、新たに建て替えなどをする場合、日本の伝統建築物を建設することを推奨する。近年、日本の伝統技術を備えた、大工の数が減っているということはニュースなどでも、耳にしたことがある。しかしながら、日本の建築様式をよく知っているのは、やはり日本人であると考え。この日本固有の建築物の建築技術は、外国からは輸入はできない。となると、*made in Japan*の建築物を作ることが出来ると考える。さらに、建築材料の瓦、木材等も日本国内のもので、賄うと、さらに日本の経済において、需要を必然的に作ることが出来るので、結果として、供給も増える。これは、一種の公共事業として、成り立つのは言うまでもないが、結果として日本人が日本らしさに改めて意識することが出来て、自国に対しての理解を高めることが出来る。

今後、日本は人口の減少が続くと考えられている。そんな中で、内需を拡大させるのは極めて難しいと思う。日本人が、日本についてのことを理解することにより、究極の地産地消、例えば、自国のメーカー製品をなるべく使うといった、考えを持たせる効果もあると思う。自分の身の回りから、日本らしさを取り戻すことは大きな効果があると考えられる。

く国から民間企業に

先ほど、国から日本式の建築物を取り入れることによる効果を述べた。ここからは、民間企業による、日本らしさを演出について述べる。

・日本の伝統家屋が集まる集合住宅地の建設

京都などでは、伝統家屋が並んだ町の景観保存はかなり進んでいる。コンビニエンスストア等も、日本古来の伝統的な建設物に溶け込むために、建物の色を通常の他店舗に比べ、変えるなどしていることは有名な話である。コンビニエンスストアは、古代から存在しているものでないことはもちろんのことだ。私は、冒頭で、和洋折衷を実現できていた明治時代を手本にと書いた。このように、現代に必要なものは備えつつ、日本の伝統的建設物を主体とするような、街並みを実現してほしいと考える。福岡市でいうと、百道浜、愛宕浜などの住宅地は均一的な街並みが広がっている。特に一戸建てにおいては、デザインなどもわざと似せているようだ。そのデザインを、木造の日本古来の建築様式で、建設するのはどうだろうか。手入れや、耐久性をアピールできれば、富裕層をはじめとして多くの人に人気が出るのではないかと思う。

〜最後に〜

今回は、「夢のような話をしよう。」というテーマのもと、自分の考えを書くに至った。私が今回、記述させてもらったことは、実現不可能なものだとは考えていない。町を日本化することにより、そのこと自体が、国の公共事業のような役割をはたしてほしいと考える。日本人は、欧米式文化を非常に好む傾向にあると最近、特に感じるため、日本文化の喪失を恐れ、今回、自分の考えを書かせてもらった。

最後になりますが、目を通していただきありがとうございました。